

はしがき

本書は、過去の本試験をデータベース化した「過去問」に「テキスト（概説）」を一体化した書籍である。

公務員試験は、予備校の台頭とともに年々難化傾向にあり、予備校を利用する受験生は、試験に頻出するデータを入手し、効率良く学習を進めて合格していくのが実情である。しかし、経済的ないし地理的な諸事情により予備校に通えない受験生は全国各地に散在し、しかもその数は潜在的受験生も含めて、数十万人以上に上るだろう。

そこで、本書のコンセプトは、上記のような「ハンディ」を抱える受験生でも、独学で合格レベルに達することができるようにすることである。もちろん、予備校に通っている受験生も、本書のデータベースを利用し、試験対策として当たっておくべき過去問を絞り込むなど、より効率的に学習を進める手立てに利用してもらいたい。

ところで、既刊の公務員試験対策の関連書籍は、簡潔な説明文の後に過去問を掲載して問題を容易に解けるようにしていたが、それは説明文の範囲内で解ける過去問に絞って掲載していたというマジックによるものである。しかし、本試験問題は、対象となる範囲は広く、また、難度の高い問題も含まれているのが実情である。そこで本書は、平易な問題から難度の高い問題まですべて解けるように編集された本物のテキストである。

さらに本書の特徴は、本試験に出た問題を細分化した領域（分野）ごとに振り分け、データベース化し、これをグラフにして視覚的にどの領域（分野）の出題頻度が高く、重要であるかを一目で分かるようにしたことである。昭和の問題や平成初期の問題は公開されていなかったため、受験生の記憶に基づく再現により復元された問題が多い。そのため、再現自体は不正確なものもあるが、どの領域（分野）で出題されたかというデータは複数の過去問集等を詳細にチェックしたことでその正確性を担保できたものと自負する。

加えて、本試験問題は数十年にわたり存在するものであるが、その相当数に及ぶ過去問とそれらへの逐次の解説を網羅し1冊の書籍にまとめることは、紙幅の問題もあり、事実上不可能であるとされてきた。しかし、本書では、過去問の大多数に重要度や難易度を付したうえで掲載し、他方でその解説は合格に必要なポイントのみに絞り、解説のコンパクト化を意識した。その結果、公務員試験に不要となる学説などの知識は極力避けるようにした。

本書を含めたプレミアム・シリーズは、対象となる試験にあわせて2つのレベルに分けている。公務員試験の法律系科目のレベルが比較的平易な「特別区I類（地方上級）」「国税専門官」「国家一般職」に対応する「憲法A」と、法律系科目のレベルが高い「国家総合職」「裁判所総合職・一般職」に対応する「憲法B」である。なお、全国の地方上級試験の受験を希望する受験生は、「憲法A」で十分対応しうるものと考えられる（地方上級試験は、本試験問題が公開されていないが、レベル・難易度は同等である）。いずれ

も本試験の過去問をベースに作成されているので、読者（受験者）本人が希望する試験種に合わせて学習することをお薦めする。

本書は、他の書籍と比較して多少高価に感じる読者がいるかもしれない。しかし、過去の本試験問題がほとんど入っており、しかも過去問とテキストが一体化したものであることを併せて考えれば、安価な買い物といえるかもしれない。

最後に、小社公務員試験編集所は、公務員試験対策のための「本物の一冊」として、本プレミアム・シリーズをこの世に送り出し、予備校に通えない受験生も含め、広く公務員をめざす読者（受験生）の皆様に、これまでの書籍に付加価値を加えた一冊を届けたいと思う。